

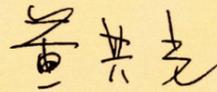
# 伊予三島ロータリークラブ



三島公園 小林一茶句碑

## ロータリーに輝きを

Light Up Rotary



2014~2015年度国際ロータリー会長

事務局 四国中央市金生町下分865 四国中央商工会議所内  
 http://www.iyomishima-rc.jp TEL (0896) 58-3530  
 E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp FAX (0896) 58-6294  
 例会 金曜日 12:10~13:10  
 ■会長/篠原聡一 ■幹事/井原伸 ■広報委員長/松本浩一

No. 43

平成 27.4.24  
 第 2931 回

## 地区大会報告

会長 篠原 聡一



4月18日、19日に松山で行われた2670地区の地区大会に参加いたしました。

今回は、会員27名奥様2名と大変たくさんの参加をいただきました。

18日は、10時の会長幹事会から懇親会までの長丁場でした。印象に残りましたのは6時からの懇親会に5時半頃入場したのですが、早飲食が始まっておりまして。いつも始まりは早いのですが、今回は特別です。ロータリーはこんな事で良いのか少々首をひねりました。

2次会は井原幹事の手配でスナックへ、3時間ほどゆったりと懇親を深めることができました。余談ですが白田さんの中森明菜メドレーはお見事でした。

19日は前代未聞の出来事からはじまりました。なんと点鐘の鐘がありません。ガバナーの坊主頭を叩いて点鐘としましたが、会場は笑いにつつまれ、事なきを得たようです。こ

れこそがロータリーでしょうか。

養老孟司先生の講演のテーマは「生き甲斐はどこにあるのか」でしたが、最後は自分で考えろでした。面白い話でしたが、テーマとはあまり関係あったようななかったようなそんな印象でした。

この大会で感服したのは、佐々木ガバナーの存在でした。声帯を取らなければいけない大病を患いながら、すべての挨拶、発表をおこない、ガバナーの役目を全うしたことです。

このロータリー活動にかける執念には真似はできませんが少しは見習いたいと思いました。

## 2670 地区大会に参加して

香川 俊二



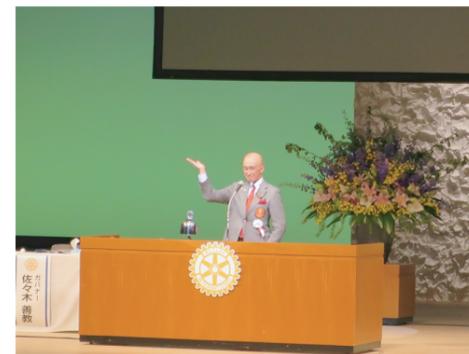
4月18日(土)、19日(日)に愛媛県民文化会館で開催されました2014~2015年度国際ロータリー第2670地区、地区大会に参加させていただきました。昨年6月にロータリークラブに入会した私にとって、初めての地区大会でありロータリーの地区大会がどのようなものであるか、大変興味を持ち参加いたしました。

まず最初に印象に残ったのは大変大勢のロータリアンの方が参加されていることでした。四国地区でもこれだけ大勢の方が社会奉仕活動に取り組まれていることに驚きを感じるとともに、会社経営者や社会的にしかるべき立場にあり大変お忙しいと思われる方が、一同に会していることに、社会奉仕に対する皆さんの意識の高さを改めて感じさせられました。

第一日目は公式行事でしたが他ロータリーの事業内容をお聞きし、まだまだロータリーに対する理解が足りない私ですが、幾分か理解を深めることができました。偶然、前任地の松山支店のお客さまに再会することができましたが、伊予三島ロータリーの参加者の多さや、まとまりの良さ(伊予三島ロータリーが呼ばれた際の声の大きさが目立った?)に感心されており、少し誇らしい気分になりました。

第二日目は記念講演で東大名誉教授の養老孟司氏の「生き甲斐はどこにあるのか」とのテーマでの講演をお聞きしました。ひめぎんホールの1Fのフロアが埋まり、上層階まで一般の方が入られる大盛況で、ベストセラー「バカの壁」などで知られる養老氏への感心の高さが伺えました。

養老氏は「自分を立てる」「個性を伸ばす」という個人を尊重し主体的な行動を求める最近の欧米的な発想は、「和を以て貴しとなす」との日本的な考えとは違和感を感じるのと考えを述べられました。先行き不透明な現代では「自分の立ち位置はどこにあるのか」「この先どうなるのか」等ともすれば不安な気持ちに陥り、何か拠り所を求めたくなるのでしょうか、最後に養老氏が述べられた「そんなことは(=生き甲斐は)自分で考えなさい」との結論は、今は職業人として生きているのだから、あれこれ考えずに目の前にある生業に一生懸命に打ち込みなさい、それが生き甲斐でしょう、と言われているような気がして「明日から仕事に頑張ろう…」と思いつつ松山を後にしたのでした。



まさに前代未聞! 点鐘用ゴングを忘れて、臨機応変に「ヘッドゴング」で対応した佐々木ガバナー



大いに会場を沸かせたスー・イチョンR | 会長代理

## 養老孟司氏の講演を聞いて



石川 勉

一連の行事は格段の替わりもない、大会であったが、記念講演で東京大学名誉教授であり、日本の解剖学の権威である養老孟司氏の「生き甲斐はどこにあるのか」という演題で、約1時間30分の講演があった。

養老氏は最初に私は、四国の自然が好きだというような趣旨の発言があり、日本の特に四国の地の成り立ちに話が及んだ。これは生き甲斐と何の関係も無いように聞こえるかも知れないが実は、私には、自分と云う人間は自然を愛し自然の美に感動する、花よりだんご的な人間ではないという強烈なアピールに聞こえた。

本人曰く、現に私は77歳の高齢で社会的地位があっても、一人で旅をし、気ままに生きている。仮に今日、いや今、何が起ころうとも、それはそれでいい。だから一人旅で結構だと。生死に思い煩わずに生きていると自分の生死感を披露しておいて講演に入った。

養老氏は社会人は誰でも、今までの人生で、一人一人がさまざまな体験や思想を受け入れ乍らここまで生きて来た。宗教についても、キリスト的考え方、仏教の輪廻の思想、孔子の論語による日本文化の形成等、一人一人がさまざまな今日までの人生の中で培ってきたものがある。それを十派一絡げにして、これが生き甲斐だ等と云える筈もなく、最後には自分の生き甲斐は自分で探すしかないと言い切った。これは当然の帰着で、私には最初から、答えは自分で見つけなさいという結論は決まっていた事項で、そこまで1時間30分の時間を掛けて説明しただけのことと感じた。これは、まったく、禅宗で悟りを開いた永平寺の道元と同じ思想を異口同音に唱えただけである。

でもこれを聞く聴衆は、毎日の生活に汲々としており、話の何たるかが十分に理解されなかったのでは、あるまいか？

その証拠に生き甲斐等と云うことは、平成の初期までは語られなかったと養老氏自身がハッキリと云っていた。私は数年前に子供に仕事を受け継ぎ、今は只の居候の暇人であるので、生き甲斐というようなことを考えない分けではない。要するに生き甲斐等ということを考えるのは豊かさの産物で、食うことに困らず、仕事を離れ、これからの長寿社会をどう生きるかということを考える暇な人の頭の鍛錬にテーマを与えたような物であると考えた。

一つハッキリ云えることは、毎日が修羅場で商売に精を出す、伊予三島ロータリークラブの殆どの会員にとっては、「生き甲斐はどこにあるのか」等ということは、まだまだ先のテーマであると思った。

(講演を聞いて3日後の眠れぬ夜に養老孟司氏の話の思い出し乍ら文面作成。)

2014～2015年度 2670地区大会

## 思い出のスナップ



出席の呼び掛けに歓声で応える会員



会場いっぱいに詰めかける2670地区



大会のハイライト、養老孟司氏の記念講演



懇親会アトラクションにうっとり



一番楽しい懇親会スタート



三次会でロータリーの信条通り、夜の街への「奉仕」と他クラブ会長(丸亀RC)との「親睦」を実践する竹本会員

## 第2931回 例会 記録 平成27年4月24日

開会 篠原聡一 会長

出席報告

出席会員 (35名中) 27名  
出席率 77.14%  
第2929回修正出席率 91.43%

会長の時間

- 定例理事会報告
- ・会員の退会について 承認
- ・クールビズについて 5月1日～ 承認
- ・5月度プログラムについて 承認
- 5/1 クラブ奉仕委員会
- 5/8 休会
- 5/15 会員増強室・会員選考委員会
- 5/22→17日(日)に変更 親睦委員会
- 5/29 卓話(外部:国際奉仕委員会担当)、定例理事会

幹事報告

- ・ガバナー事務所・ガバナーエレクト事務所
- ～GWの休業について
- 4月27日(月)～5月6日(水)まで

- ・例会変更通知 (観音寺)
- 4月30日(木) 休会
- 例会行事
- 地区大会報告

ニコニコ紹介  
結婚記念祝～篠原唯司君

5月8日プログラム予定

休 会

5月15日プログラム予定

会員増強室  
会員選考委員会